

Ⅲ-3. 大学院（放送授業）

ここからは、全体との比較で当該科目がどういう傾向にあったのかを見ていきたい。

大学院については、専攻プログラム別（中区分）の自由記述の集計結果から、よかった点は、当該科目について回答された項目が5%以上となったものを掲載した。

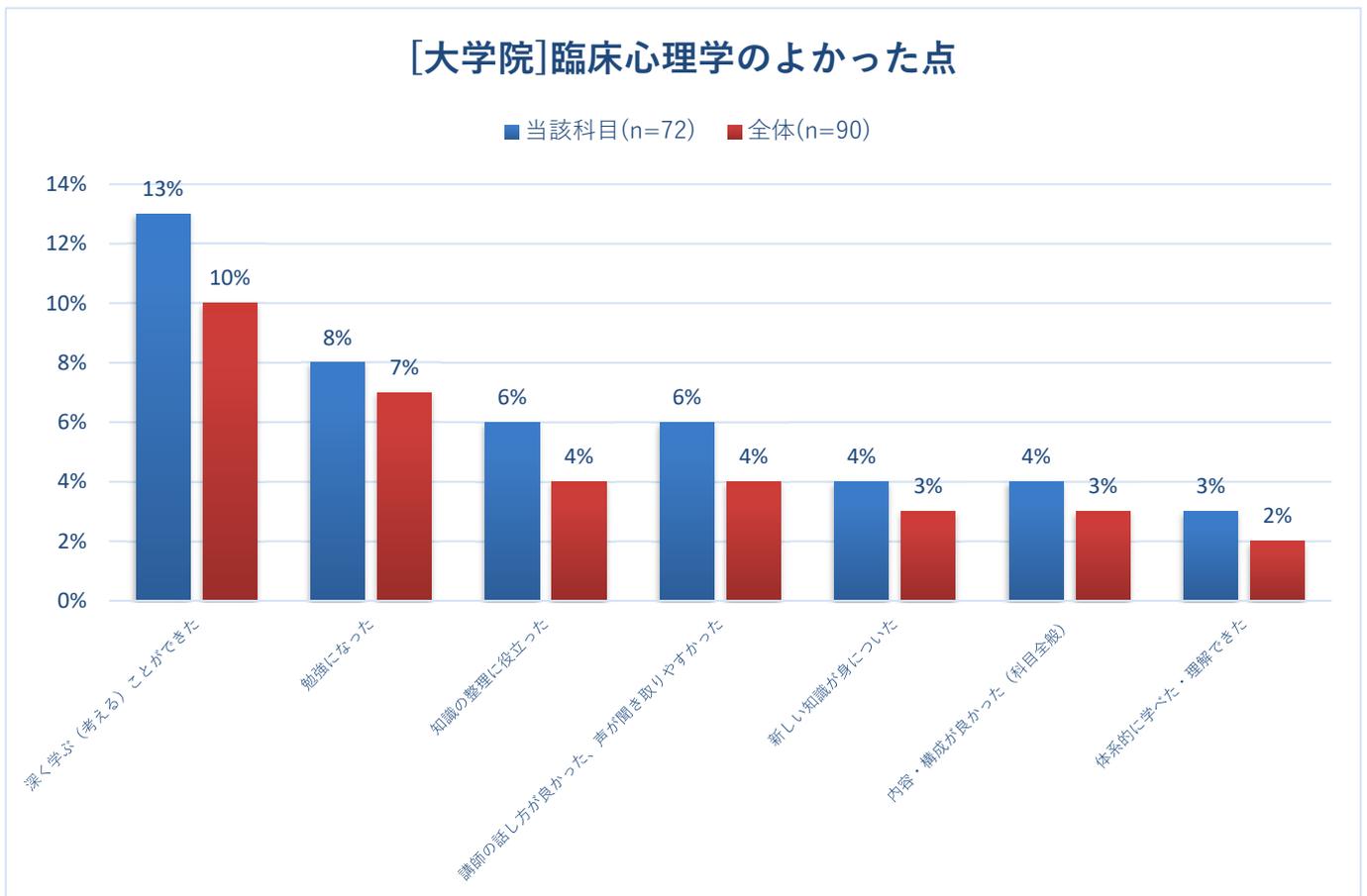
改善点は、当該科目について回答された項目のうち、5%以上、または上位5項目について掲載した。

【大学院】「臨床心理学」の傾向

よかった点

「深く学ぶ（考える）ことができた」が13%と最も高く、次いで「勉強になった」が8%が続いていた。「知識の整理に役立った」「講師の話し方が良かった、声が聞き取りやすかった」がそれぞれ6%であった。

図4-1 【大学院】よかった点



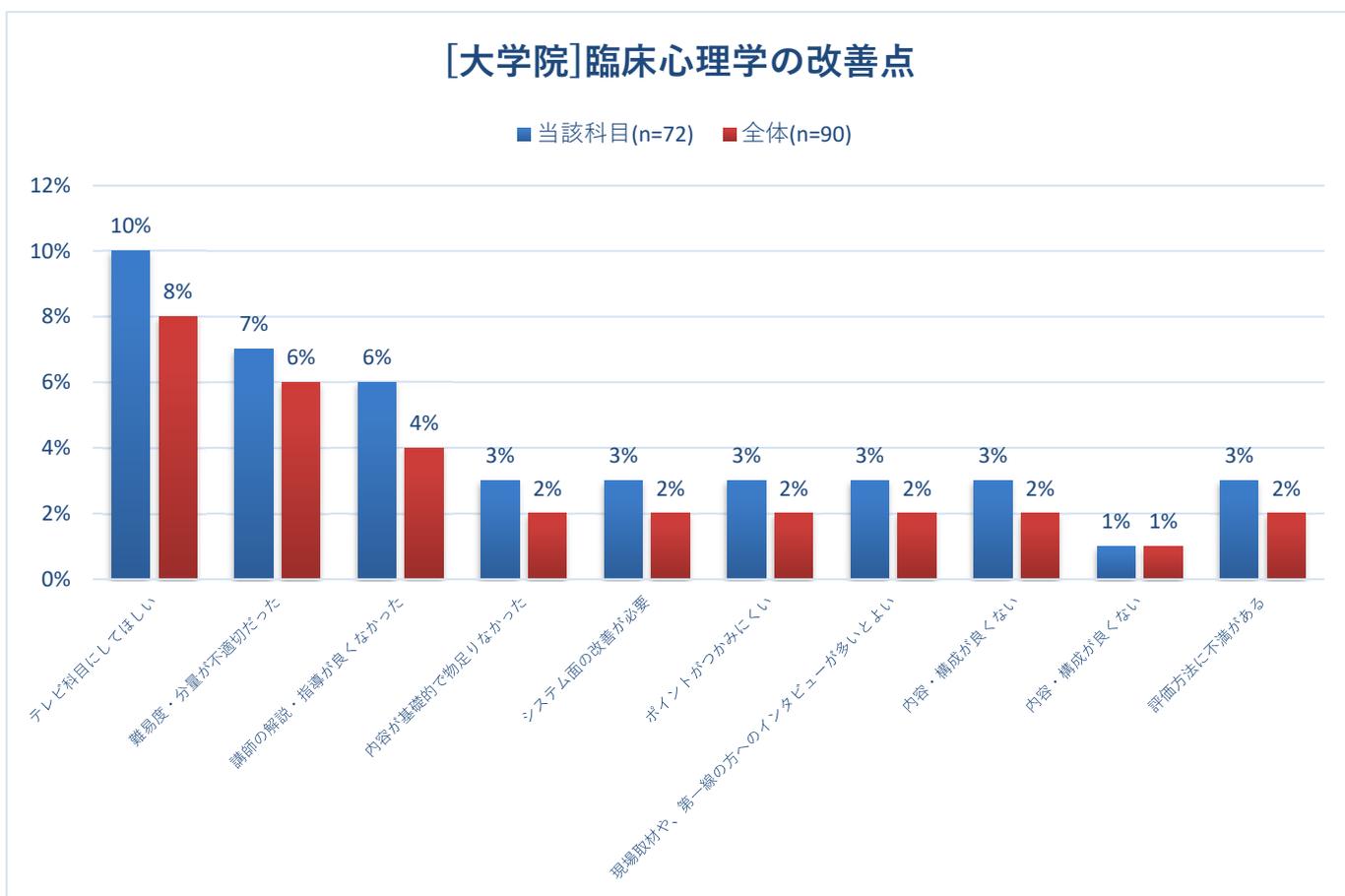
【大学院】「臨床心理学」の傾向

改善点

「テレビ科目にしてほしい」が10%と最も高く、「難易度・分量が不適切だった」が7%、「講師の解説・指導が良くなかった」が6%で続いた。

「内容が基礎的で物足りなかった」「システム面の改善が必要」「ポイントがつかみにくい」「現場取材や、第一線の方へのインタビューが多いとよい」、「内容・構成が良くない」「評価方法に不満がある」がそれぞれ3%で続いていた。

図4-2 【大学院】改善すべき点



【大学院】「臨床心理学」抜粋

よかった点

- 臨床心理学を概括的に学の役立ちました。全体像をつかみにくい学問なので、大学院科目ではありますが、入門編的に活用しました。
- 全30回、よくここまで創り込まれたと思いました。一生の宝になる科目でした。今後の学習をしていく際に、この授業で学んだことが指針となると感じています。
- 今期からの改訂科目として履修したが、前期までの同科目と比較しても内容が刷新され良い学習になったと感じる。主任講師陣の変更によるところは大きいと思うが、前期までの同科目内容が悪いとかではなく、新しい別の角度からの切り込みによって理解が深まったと感じる。
- 臨床心理学の基本的な事柄について、詳しく学ぶことができたこと。ラジオによる補足で更に分かりやすく、今まで疑問だった箇所も理解することができました。
- 臨床心理学の新しい地検に触れることができる内容だった。
- 学部で学んだ臨床心理学の知識を深めることができた
- 全体として、臨床心理学における全4領域を網羅しており、臨床心理学の全体像を把握するにはちょうど良い教材だと感じた。特にアセスメントの内容の数回は、印刷教材だけではなかなか理解することのできない、アセスメントの考え方などを、放送授業によって具体的にわかりやすく説明してくださっていたので、とても楽しく学ぶことができ、満足している。
- 大学で心理学を学んでいないことから、臨床心理学全体を学ぶことができありがたい科目でした。ゲストの回は現場の方のお話が聞けて、臨床心理士がどのような仕事をしているのかイメージを持つことができました。数人の先生が科目を分担されている点も、飽きずに視聴できたポイントかなと思います。
- 文献紹介が参考になりました。
- 学部で勉強したことのおさらいとしてはよかったかと思う。
- 臨床心理学についての知識が一通り復習できたこと
- 臨床心理学とその周辺の広い範囲の知識を得られた。このことによって、自分自身でいろいろな分野に深めていく可能性が開ける。臨床現場に携わる人、学者のインタビューが実践的であった。
- 今まで学んできた内容の総括と、これからの指針を示していただきました。このタイミングで受講できたことは、まさに僥倖です。今後も印刷教材を傍らに置いて、折を見て見直します。特に大山泰宏先生の授業では、今後どのように学習を進めていけばよいかを、考えさせられました。
- 思っていた内容とは違ったが、だからこそ、思ってもみななかったところで活かせるような知識が得られた。
- 臨床心理学のいろいろな課題や、背景までよく理解できました。
- 臨床心理学特論として全体的にどのような内容を学ぶのかの理解が得られた。社会生活で種々の問題が発生しているが掘り下げて見る視点や対処方法について学んだ。
- 基本的な内容で中核をなす教科であり知識の整理ができたことは良かったです。なお、私の場合は本科目が必須科目であるため受講は必須でした。
- 学部での学びをさらに深めることができた。
- 全体を掴んでいくにはとても勉強になった。放送では実際には現場で働かれている方の話を中心に印刷教材と分けたの内容もあり、より実践的なお話が興味深かった。大山先生の授業は語りかけるようでとても聴きやすいです。
- 学部で学んできた臨床心理学の復習が出来たとともに、更に一步掘り下げて、心理職としての心構えが随所に散りばめられていたこと。
- これまでは臨床心理学を避けて、発達心理学を楽しんできていたが、臨床心理学の内容がどんな内容なのかを理解できた。心身に障害がある人への理解の仕方の参考になった。

【大学院】「臨床心理学」抜粋

改善点

- 私自身は視覚的に学んだ方が理解が深まるので、やはりフリップボード等をテレビ映像で見たいです。
- 30回という抗議回数を、どこにも粗を感じることなく学習することができました。時間を作り、いつか2週目をするときが来ると思います。ここが臨床心理学の学びの本当のスタートラインだと思える科目です。迷ったらここに帰ってくるでしょう。
- 臨床心理学は実践の学びが全科生でも少ないため、放送授業の中に実践としての内容、ゲスト講師によるものなどをもう少し増やしてもいいと感じる。
- ただ、表面をさらっと流しただけの内容に終始して、深まりは感じなかった、
- 放送授業ではゲストの回が多かったが、印刷教材の内容も一通り触れて頂けると良いと思った。
- 印刷教材をそのまま読むだけの授業だと、時間ももったいない。発展的な資料を使っての説明などが欲しい。資料は放送大学のどこかから生徒がダウンロードするなどして、教科書で読む以外の特典があるほうがよい。実験データなどの資料は、説明が不足しているところが多い。
- ゲストとの対談が長すぎると、逆に理解しづらい。放送授業印刷教材の流れに沿いながら、ゲストとの対談を挟んで、授業を進行いただくと、理解が深まる。
- 講師によって、テキストに準拠するかどうかが大きく変わる。テキスト通りの順番でお話しされる先生もいれば、あちこちに飛ぶ先生もいて、受講スタイルを確立させられなかった。また、ゲスト講師の方のお話は参考になるところもあったが、一方で、その時間を確保するために早口で講義内容をまくしたてている回もあり、追いつくだけで精一杯だった。
- もっと、ゲストのお話しが聞ければよかったですと思います。
- 放送授業を聞きながらテキストを見るのは、1回分のテキストの分量が多く、視覚と聴覚がついていけないと感じました。私の場合は、先に放送・テキストのどちらかで学んでから（予習）、もう片方で復習するのが効率的と思いました。ですので、放送授業では聴覚だけで理解できるような構成が良いと感じました。
- 画面がないので描いていただいた絵の説明がやはりわかりにくいところがあった。
- ラジオの音声だけだと、テキストをかなり読み込んでおかないと内容についていけないことが多いです。もちろんそれは学ぶ側の問題ですが、テキストには書かれていないゲスト講師の話も、少しテキストに組み込んで頂ければと思いました。
- 責任講師は、1人でよい。
- 印刷教材に書いてない内容が多い講師が主任講師であり、その講師の授業は理解できなかったのが残念であった。学ばせたい内容は言葉で話し、文字にも表せば理解しやすく、多くの科目で実施されており、感謝している。ゲスト講師の話は興味深いのが、学習内容の説明がなくなり、わかりにくくなるのが多くあった。ゲスト講師の人格が伝わり、よかったこともあったが、1回目の放送から理解できないということは初めてのことであった。
- ラジオ講座のため、視覚的な学習がなく、関連資料等は別に確認する必要があった。できれば映像があると良い。ゲストによるリアルな現場の話は興味深く聞くことができ、大変良かった。
- 例えば、臨床描画法などの授業では、ラジオよりもテレビでの授業の方が視覚に説明できるので理解しやすいと思います。
- 個人的な希望となりますが、放送授業の各回の冒頭などで前後のつながり（講師の視点で）の説明があると、より理解が深まるように感じました。
- ここでしか学べないので心理療法の内容をもっと増やして欲しいと思った。
- 図や表を多く使ってほしい
- もっと時間を短く、簡潔な内容にしてほしい。
- 特に無いのですが…スマホでもいつでも講義を聴くことができるのは本当にありがたいです。通勤や家事の時に繰り返し聴くことができました。

【大学院】「臨床心理学」

よかった点

(単位：人)

科目全般			
意見	テレビ	ラジオ	合計
深く学ぶ(考える)ことができた		9	9
勉強になった		6	6
知識の整理に役立った		4	4
新しい知識が身についた		3	3
内容・構成が良かった(科目全般)		3	3
体系的に学べた・理解できた		2	2
引用・参考文献・補助教材・問題集、アプリの紹介が良かった		1	1
学習意欲・知識欲がわいた		1	1
今後に役立つ内容だった		1	1
最新の情報・研究が学べた		1	1
自分の知識不足、学習不足を自覚できた		1	1
専門的な内容だった		1	1

印刷教材			
意見	テレビ	ラジオ	合計
手元に置き、今後も読みたい内容だった		1	1

放送授業			
意見	テレビ	ラジオ	合計
講師の話し方が良かった、声が聞き取りやすかった		4	4
ゲストを招いた授業が良かった、ゲストの話が良かった		1	1
現場取材や、第一線の方へのインタビューが良かった		1	1
複数の講師の講義を聞くことができた		1	1
良い授業だった		1	1

改善点

科目全般			
意見	テレビ	ラジオ	合計
幅広い視点でのカリキュラム編成をしてほしい		1	1
内容が基礎的で物足りなかった		2	2
内容・構成が良くない		2	2
授業科目案内は内容が不十分だった		1	1
最新の内容を講義してほしい		1	1
期待していた内容ではなかった		1	1
科目の分類に疑問がある		1	1
もっと詳しい説明・解説をしてほしい		1	1

放送授業			
意見	テレビ	ラジオ	合計
理解しにくい		1	1
内容・構成が良くない		2	2
声が聞き取りづらい		1	1
講師は1人の方が良い		1	1
講師の解説・指導が良くなかった		4	4
講師によって授業のレベルが違う		1	1
講師・ナレーター・ゲスト等の話し方が良くない、声が聞き取りづらい		1	1
現場取材や、第一線の方へのインタビューが多いとよい		2	2
印刷教材をもっと活用してほしい		1	1
印刷教材の内容と異なる・運動していない		1	1
ポイントがつかみにくい		2	2
テレビ科目にしてほしい		7	7
システム面の改善が必要		2	2
ゲストや別の講師を招いてほしい、増やしてほしい		1	1
ゲストや別の講師の話をもっといろいろ聞きたかった		1	1
インタビューやゲストの話が多い、時間を取られる、教材と関係のない話は不要		1	1

印刷教材			
意見	テレビ	ラジオ	合計
難易度・分量が不適切だった		5	5
放送授業中の資料・データ、ゲストの話を載せてほしい		1	1
印刷教材の形状が使いにくい		1	1
図・表・写真・イラストが見づらい		1	1

単位認定試験			
意見	テレビ	ラジオ	合計
評価方法に不満がある		2	2
験の設問内容が理解しにくい・出題の仕方に違和感がある		1	1
受験の要領がわかりにくい		1	1
問題数が多かった・範囲が広がった		1	1

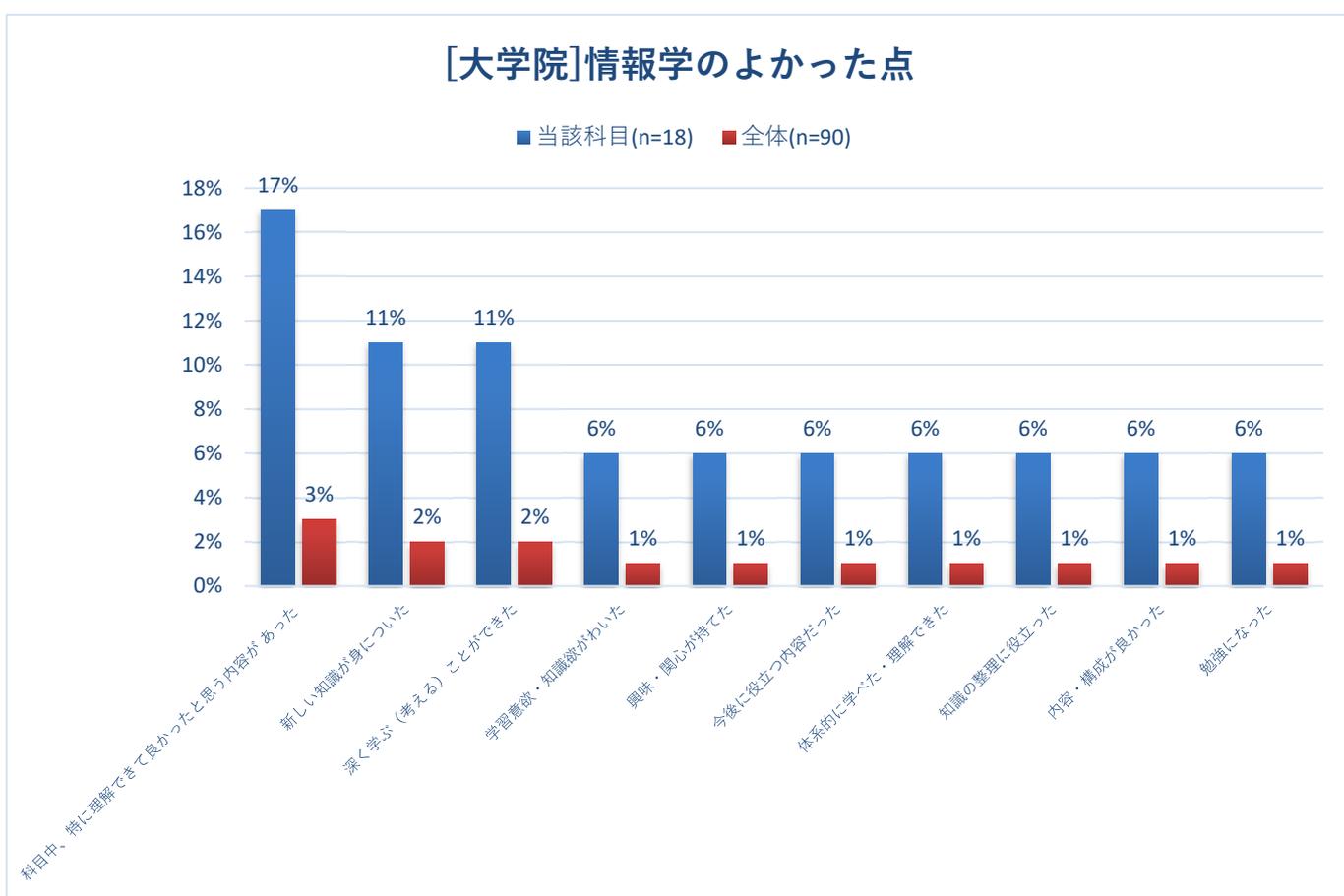
【大学院】「情報学」の概要

よかった点

「科目中、特に理解できて良かったと思う内容があった」が17%と最も高く、次いで「新しい知識が身についた」「深く学ぶ（考える）ことができた」が11%で続いていた。

上記以外では、「学習意欲・知識欲がわいた」「興味・関心が持てた」「今後に役立つ内容だった」「体系的に学べた・理解できた」「知識の整理に役立った」「内容・構成が良かった」「勉強になった」がそれぞれ6%で続いていた。

図4-3 【大学院】よかった点

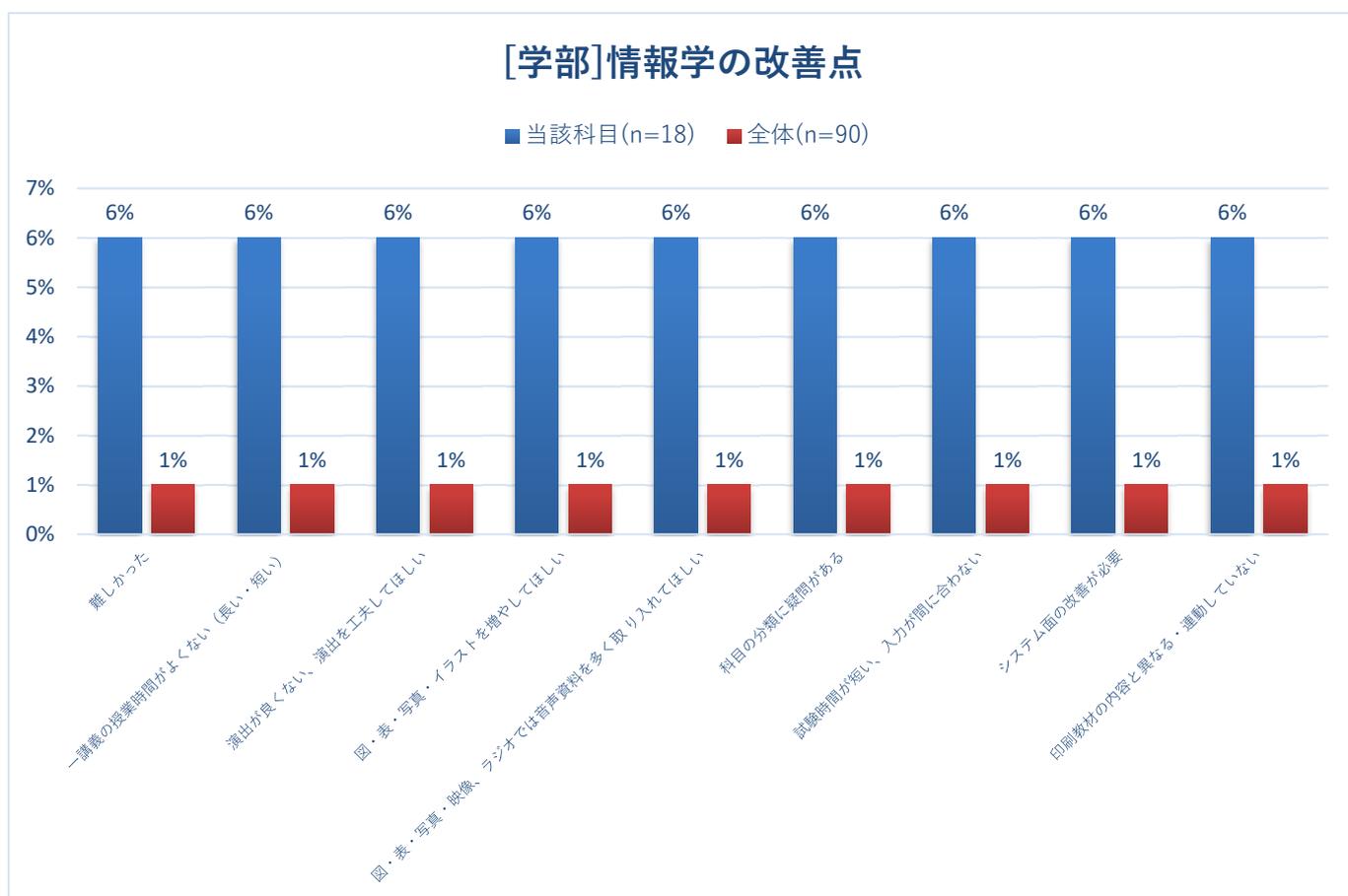


【大学院】「情報学」の概要

改善点

「難しかった」「一講義の授業時間がよくない（長い・短い）」「演出が良くない、演出を工夫してほしい」「図・表・写真・イラストを増やしてほしい」「図・表・写真・映像、ラジオでは音声資料を多く取り入れてほしい」「科目の分類に疑問がある」「試験時間が短い、入力が間に合わない」「システム面の改善が必要」「印刷教材の内容と異なる・連動していない」がそれぞれ6%であった。

図 4 - 4 【大学院】改善すべき点



【大学院】「情報学」抜粋

よかった点

- 知りたい疑問に思っていたことについて知ることができた。今後の勉強の方向性についても次の目標が定まった。こちらの質問についてわざわざ他大学まで問い合わせをして答えてくださった。内容についても目からうろこだったし、対象へのアプローチ方法も学際的で学ぶことが多かった。
- 新しい知識や、見る観点を知ることができて満足している。
- 耳に聞こえない超高周波を含むハイレゾ音源の音楽を再生した場合と超高周波を含まない音源の音楽で差があることを感じていたのですが、この科目を受講して疑問が解消できました。武満徹やシェーンベルクには関心があったので、いろいろ調べるきっかけとなり、良かったです。
- 元々、音楽や踊りをすると、とても楽しいという感触がありました。この授業を受講することで、その研究の歴史や音楽の素晴らしさやデジタル化の流れの中での音楽の将来等を考えるきっかけになりました。加えて、精神医療をはじめとする情報医療の分野への適用が進んでいることにも触れることが出来、これからもフォローしていきたいと感じました。
- 音楽が生きていく中で必要なものだという事が良く理解できた。自然の音がある環境が生活の中で大切だとわかった。音は耳だけでなく、皮膚からも感受していることが理解できた。これから生きていく中で大切な事を学んだ。音楽という情報が薬にも匹敵する事を学んだ。大事な事を学んだ。
- ハイパーソニックエフェクトを少し理解できたこと。 音楽と機器への興味が高まった。健康と音楽が結びついた。
- ハイパーソニック・エフェクトについては知らなかったので知見が広がった。
- ハイパーソニック・エフェクトについての知識整理が出来た事。
- 音楽の重要性が体系的かつ科学的に説明されることで理解が深まった点。
- 日常業務として、睡眠脳波の解析に関わる仕事をしており睡眠脳波にみられる $\alpha 1$ 、 $\alpha 2$ 周波数帯についての興味が湧いてまいりました。覚醒時の α 波と睡眠脳波における α 波の意義の違いが歴然としているため、それを研究してみたいとさえ思いました。ハイパーソニックエフェクトはまた、私にとって大きな刺激となりました。研究発表の経験はありますが、論文は作成経験がなく修士課程に入学して一度は作成したいと考えております。
- 一般的な人文科学としての芸術研究で無く、自然科学的な芸術の研究に興味があったので良かったです。
- 音響が大好きなのでその延長で理解が深まった。またインドネシアに住んでいたためガムラン音楽が身近で内容の理解がすすんだ。ただし講師の思い入れと私の超高周波への感覚がずれているので、試験の答案等へ採点が厳しかったとおもう。芸能山城組に偏りすぎていると感じる。
- 音楽に興味のある人や音楽を作る・携わる人にとって、いろいろな視点から音楽を学ぶことができる良い教材だと感じました。
- 音が知覚される過程がよく分かった。先に近く認知心理学を受講していたが、実際に音を聞きそれが科学的にどのように認知されていくのかがある程度理解できた。

【大学院】「情報学」抜粋

改善点

- 授業内容を一新したばかりということであったが取り上げられている内容がおよそ20年位前の内容で最新の研究についての紹介がテキストでなくても放送だけでもほしかった。
- 解説の表現レトリックが、わかりやすいぶん、科学的ではないように感じられる箇所があった。また、可聴域では、音を音楽（旋律や音色）として捉えているのに対し、超高周波成分では「豊富に含む」という表現になってしまい、多いか少ないかだけで論じているところが、自分としては最後までじっくりこなかった。
- ハイパーソニック・エフェクトの効果について、もっと大きく表示すべきだと思います。102ページの図。図6-2。レポートに書くべき答えがここに示されているように感じるからです。
- 特別編では映像が理解を深めた。ラジオ番組よりもTV番組の方が理解は深まる。
- 機器や録音の問題で難しいとは思いますが、実際にハイパーソニック・エフェクトを体感できる教材があれば良いと思う。
- 昨年度後期はインターネットでの視聴覚教材が付いていて興味が出たので、今年度前期の講座を受講した。残念ながらインターネットの視聴覚教材が、消えていたに気づいた。今後、インターネットでの視聴覚教材を再開することを期待します。
- 解剖学や生理学などの生物学的な知識を有しているほうが理解が深まると感じます。文系科目と存じますので、その辺りの説明がもう少しあるとよいのかと思いました。
- 教本に掲載されている資料などが不明瞭であることは大きな支障ではなく、興味が湧けばいくらでもwebを検索できるので問題はないと思います。
- 音響に関する科目なので、ハイレゾ音源を使った講義をやると良いと思う。Webであれば100kHzの音も提供できるでしょうし、私が持っている機材なら十分に音場を再生できるので、講師の意見と私の感覚の比較検証ができるとおもう。
- 音楽が感動を与えるという内容の講義にケチャやガムランを紹介していたが、印刷教材の写真だけではイメージもわからなかったのでインターネットの動画を見た。それによってより理解が深まったが、放送授業だけでは理解が深まらないと思った。
- 単位認定試験をオンラインで受験したのですが、回答は800文字以内となっているのに、回答欄は800文字以上入力が可能なので、また、どのくらいが800文字という目安もありませんでした。そのため、おおよその文字数を計算しながら入力する必要がありました。試験時間も長くはないので、回答欄のしくみや問題の回答方法（例えば、800文字を多少超えてもOKとか）を改善できないでしょうか。
- 図を大きくすることで、注意がそこに行き、理解しやすいのではと思いました。
- 中間レポートと最終レポートの課題が似通っており、理解判定にはふさわしくないと感じた。
- やはり映像がある方が良いと思う。
- 通信指導は積極的に取り組んだ。特に自分の体験を通じたハイパーソニック効果についての知見を、授業で学んだ内容を加えて述べた。通信指導の評価結果に対して、何も言える立場に無いが、評価結果は出題意図と違うということで、最低の評価点になったことは、非常にガッカリした。
- テストの際、文書の記載中誤ってダブルクリックした途端に送信が完了されたことは非常に残念でした。
- 上記の通り、超高周波の音源を通じて講義内容を説明していただきたい。

【大学院】「情報学」

よかった点

(単位：人)

科目全般			
意見	テレビ	ラジオ	合計
科目中、特に理解できて良かったと思う内容があった		3	3
新しい知識が身についた		2	2
深く学ぶ(考える)ことができた		2	2
学習意欲・知識欲がわいた		1	1
興味・関心が持てた		1	1
今後に役立つ内容だった		1	1
体系的に学べた・理解できた		1	1
知識の整理に役立った		1	1
内容・構成が良かった(科目全般)		1	1
勉強になった		1	1

【大学院】「情報学」

改善点

(単位：人)

科目全般			
意見	テレビ	ラジオ	合計
難しかった		1	1
科目の分類に疑問がある		1	1

放送授業			
意見	テレビ	ラジオ	合計
図・表・写真・映像、ラジオでは音声資料を多く取り入れてほしい		1	1
図・表・写真・イラストを増やしてほしい		1	1
演出が良くない、演出を工夫してほしい		1	1
印刷教材の内容と異なる・連動していない		1	1
一講義の授業時間がよくない(長い・短い)		1	1
システム面の改善が必要		1	1

単位認定試験			
意見	テレビ	ラジオ	合計
試験時間が短い、入力が間に合わない		1	1

Ⅲ－４．大学院（オンライン授業）

ここからは、全体との比較で当該科目がどういう傾向にあったのかを見ていきたい。

大学院については、専攻プログラム別（中区分）の自由記述の集計結果から、よかった点は当該科目について回答された項目が5%以上となったものを掲載した。

改善点は、当該科目について回答された項目のうち、5%以上、または上位5項目について掲載した。

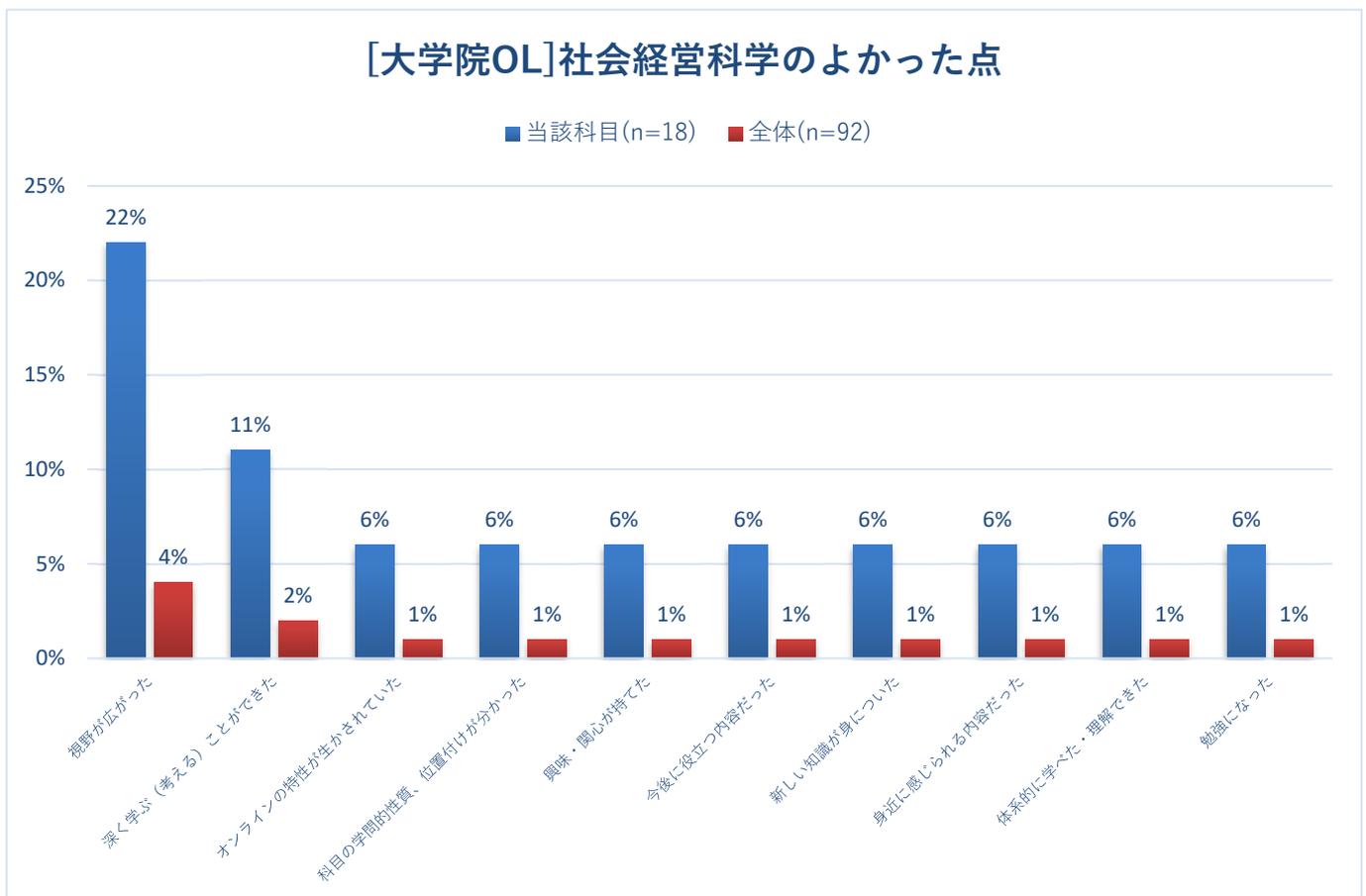
【大学院オンライン】「社会経営科学」の傾向

よかった点

「視野が広がった」が22%と最も高く、次いで「深く学ぶ（考える）ことができた」が11%で続いていた。

他では、「オンラインの特性が生かされていた」「科目の学問的性質、位置付けが分かった」「興味・関心が持てた」などがそれぞれ6%で続いていた。

図4－5 【大学院オンライン】よかった点

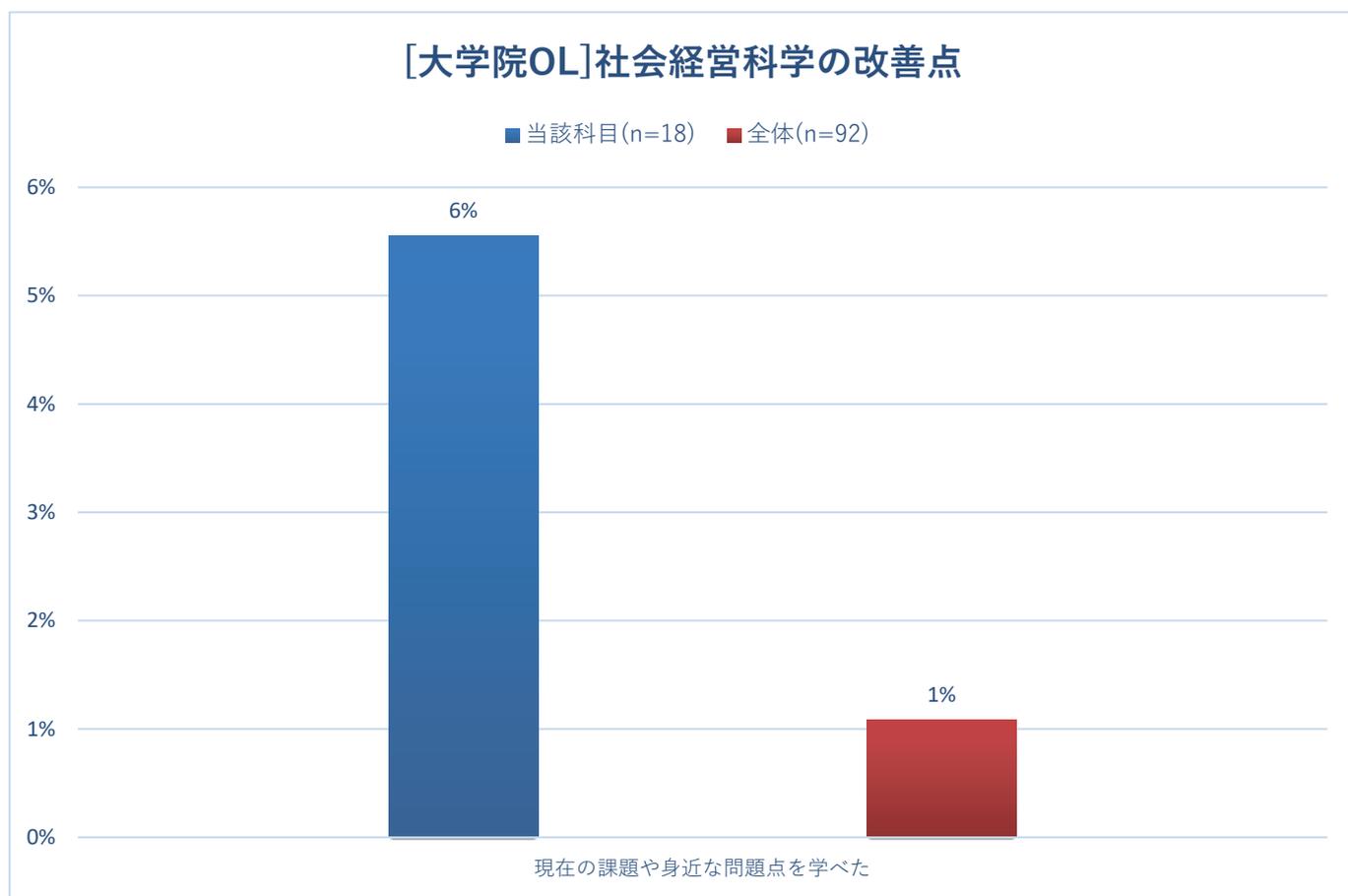


【大学院オンライン】「社会経営科学」の傾向

改善点

「現在の課題や身近な問題点を学べた」が6%であった。

図4-6 【大学院オンライン】改善すべき点



【大学院オンライン】「社会経営科学」抜粋

よかった点

- ①社会学、都市社会構造論というのはこれまで馴染みがなかった分野ではあったが、その内容を垣間見ることが出来て視野を広げることが出来たような気がする。
- ②期末レポート作成にあたっては、自分が居住している地域の社会構造について改めて考える契機となり、今後もそういう視点で地域を見つめていこうという思いを持つことが出来た。
- 「都市社会構造論」という系統の授業を始めて受けたが、自分自身の過去の記憶につながる部分が多く、とても興味深く学ぶことができとてもよかった。
- この社会学の科目は、閉講した科目と殆ど同じ内容（実際の作成者が同じ？）であったが、前の時はラジオ科目のために、理解度が良くなかった。今回はオンラインなのでテレビ科目と同じ型式であり、指導教官が映る画面は、授業を受けている感じがあり、ラジオによる授業よりも数段良いと思った。
- 以前、テキスト版の『都市社会構造論』（2018年）を読んだことはあったが、本科目を受講してより理解が深まったように思う。
- 今までとは違う視点で歴史を見られるようになった。
- 自分の住んでいる都市（川崎市）について深く考えるきっかけになった。また外国の諸都市について・都市の空間構造などが勉強になった。
- 社会福祉関係の研究テーマを考えているので、都市化の内容は関連があり視野も広がった
- 授業の中には都市化についての具体的課題や課題の解決方法などがあり、地域のまちづくり活動を進めるのに役立つことが出来る。
- 身近な社会の構造について、考察する論点を学ぶことができました。
- 専攻科目の授業ですが、既に持つ知識の確認と新たな学び、学習範囲と視野を拡大することができました。
- 都市の構造について、今まで疑問に思っていたことを考えるようになりました。また、今回の受講を機会に都市の構造と歴史について、他の都市についても考えるようになると思います。新たな視点を与えられました。
- 都市の成り立ちがよくわかったことと。その中での「社会学」としての立ち位置が理解できたことが良かった。
- 都市社会構造について体系的に学ぶことができ、今後の業務にも大いに役立つと感じた。
- 普段では得られない視点から日常生活を鑑みる事ができた。
- 視野が広がったように感じるから。上記の通り、超高周波の音源を通じて講義内容を説明していただきたい。

【大学院オンライン】「社会経営科学」抜粋

改善点

- 図表をもっと多く使用して説明して欲しかった。
- 改善すべき点というわけではありませんが回毎の要約メモを見ながら予習復習をしていました。
- 科目修了後、授業資料が手元に何も残らないのであれば、学部の同名授業のテキストを購入すべきかと思っています。
- 1回分程度、対談のような形で科目の振り返りや科目についての最新の議論を紹介するような企画があるとよいと思います。
- 昔の文献からの図面等の資料は、詳細を「目視」できるほど鮮明ではなかったなので、あえて資料中に載せる必要もないと思います。
- 口頭での内容説明や、箇条書きのボードで十分に把握可能です。
- 実際、出典の参考資料を手にとって読み込むことで、再度自ら確認することができました。

【大学院オンライン】「社会経営科学」

よかった点

(単位：人)

科目全般	
意見	合計
視野が広がった	4
深く学ぶ(考える)ことができた	2
科目の学問的性質、位置付けが分かった	1
興味・関心が持てた	1
今後役立つ内容だった	1
新しい知識が身についた	1
身近に感じられる内容だった	1
体系的に学べた・理解できた	1
勉強になった	1

オンライン教材	
意見	合計
オンラインの特性が活かされていた	1

【大学院オンライン】「社会経営科学」

改善点

(単位：人)

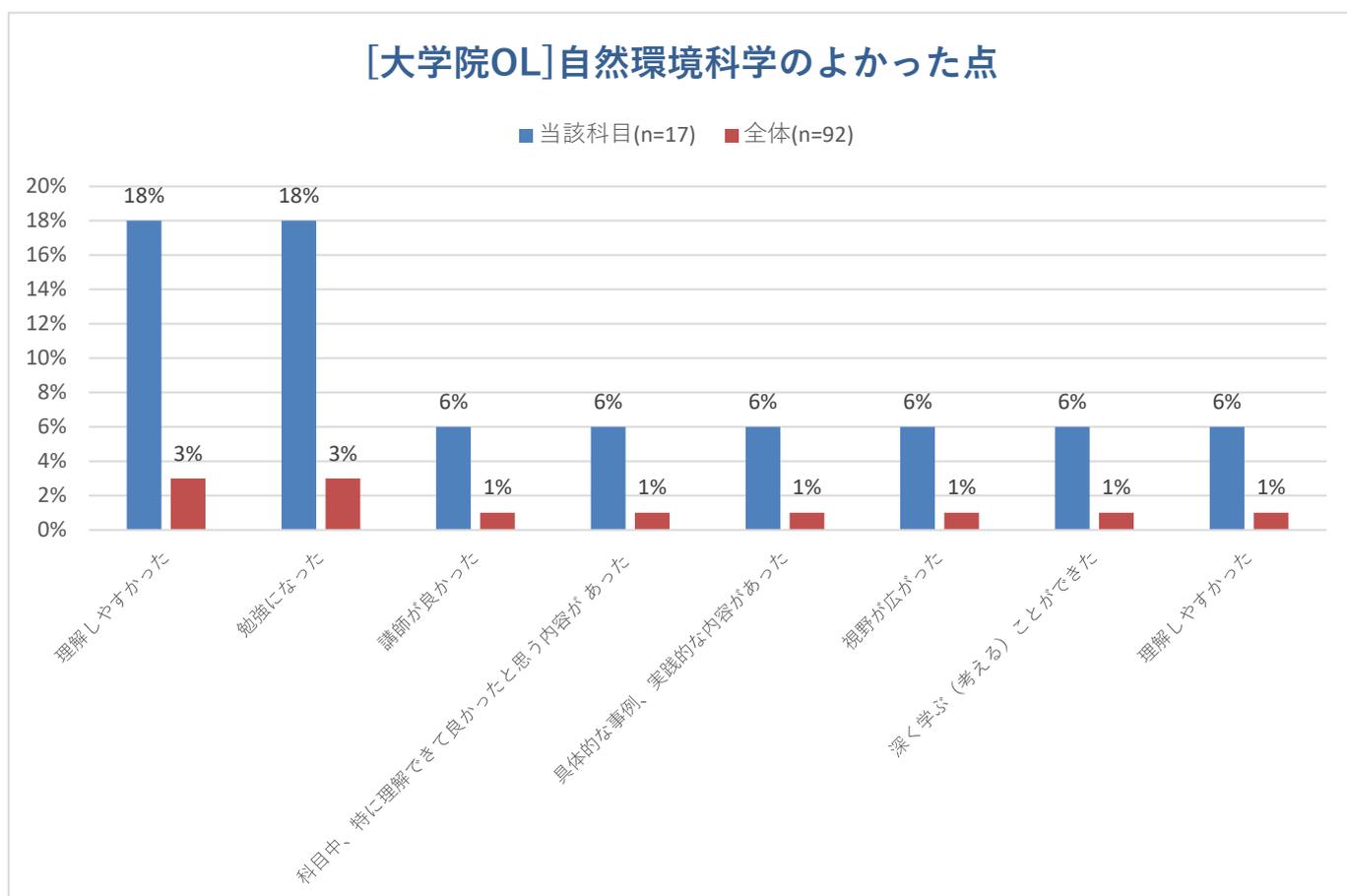
オンライン教材	
意見	合計
現在の課題や身近な問題点を学べた	1

【大学院オンライン】「自然環境科学」の傾向

よかった点

「理解しやすかった」「勉強になった」がそれぞれ18%で最も高く、次いで「講師が良かった」「科目中、特に理解できて良かったと思う内容があった」「具体的な事例、実践的な内容があった」「視野が広がった」「深く学ぶ（考える）ことができた」「理解しやすかった」がそれぞれ6%で続いていた。

図4-7 【大学院オンライン】よかった点

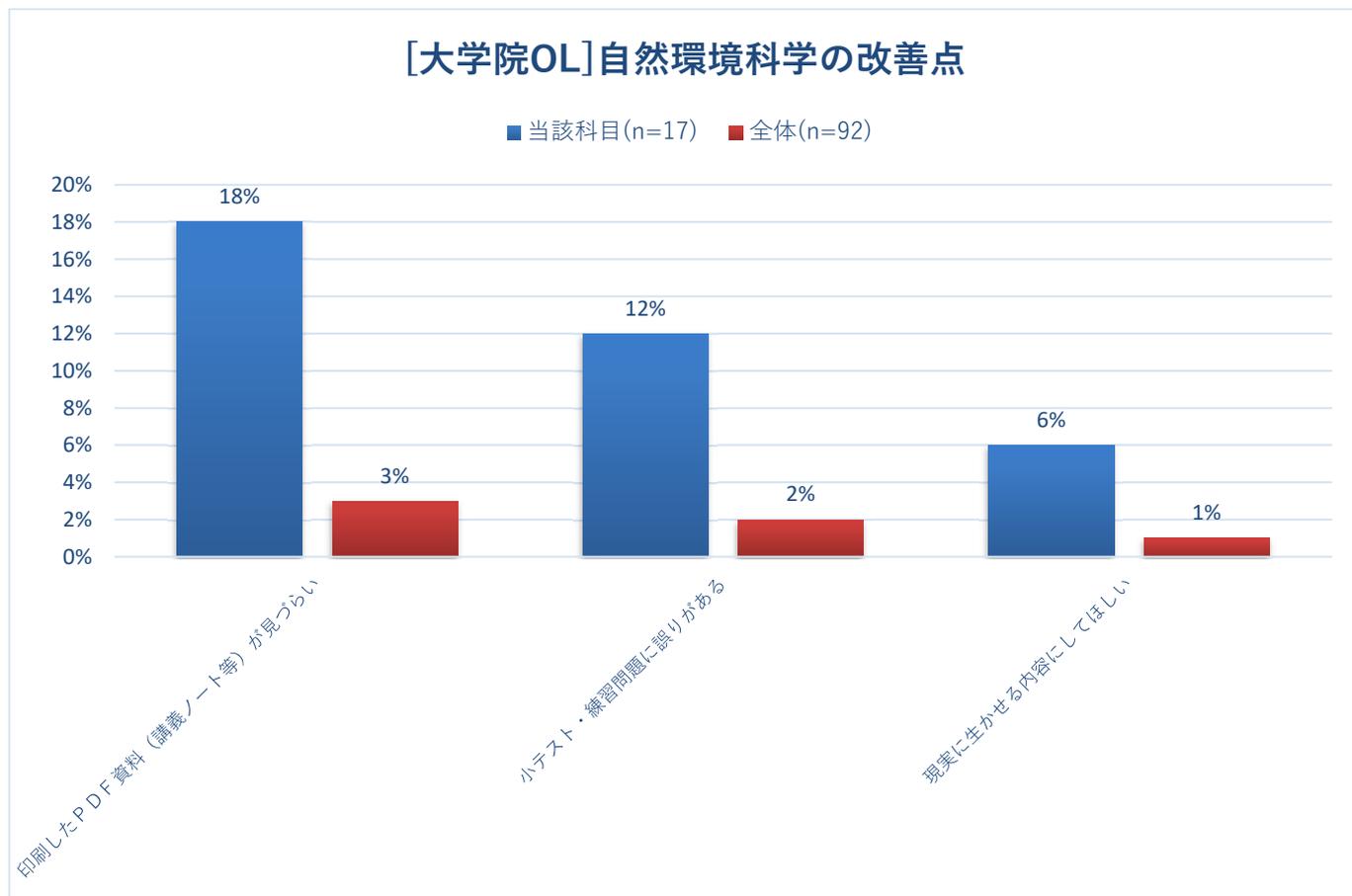


【大学院オンライン】「自然環境科学」の傾向

改善点

「印刷したPDF資料（講義ノート等）が見づらい」が18%で最も高く、「小テスト・練習問題に誤りがある」が12%、「現実に生かせる内容にしてほしい」が6%で続いていた。

図4-8 【大学院オンライン】改善すべ点



【大学院オンライン】「自然環境科学」抜粋

よかった点

- データの統計的なまとめ方について、必要事項が簡潔にまとめられ、わかりやすく説明されていたので大変役に立つと感じました。また、学术论文などでのデータの表やグラフの作成の一般的なルールについて知ることができたのも良かったです。
- 統計について、初学者からよくわかる講義展開でした。
- 各種のデータ処理を学ぶことができた。
- 論文図表を読み込む能力が向上したように思います。
- 統計の勉強をしないといけないと感じていたことと、グラフなどの作図について、研究レポート作成に直結する内容で勉強になった。
- データの分析方法をしっかりと学ぶことができた。
- データの扱い方が、わかりやすく説明されている授業だった。
- 種組成データの講義で理解しにくかった部分をこの講義で補うかたちで受講しました。とても分かりやすかったです。
- 統計分析を学ぶにあたり、事例が多く、分かりやすかった。進め方も初心者向けで理解ができた。
- まだ、十分理解できていないところがあるが、自然界の現象や社会現象を統計を使って説明する重要性と統計学の幅の広さがよくわかってよかった。
- 生態学を題材に調査結果を分析法を替えての講義は分かりやすく興味が湧きました。この講義を選んで良かったと思います。講師の講義の速さや声質、丁寧な説明はとても良かったです。
- データの扱い方について理解が深まった

【大学院オンライン】「自然環境科学」抜粋

改善点

- 事前学習用や講義中のメモなどに「視聴メモ」を利用しましたが、パワーポイントのスライドがそのまま縮小印刷されているだけなので、印刷した紙面での表やの数値の値やグラフのデータの動向などが小さすぎて見にくく、表やグラフ中への書き込みもできない点が不便に感じました。また次項に記載したように、授業終了後の復習用の利用にも適していないと感じましたので、重要項目は、別途、補足資料があると良いと思います。
- 映像教材の速度を変えられる様にして欲しい。難易度の高いところはゆっくりと聞くことができてよかったのですが、そうでないところでは 解説の速度を上げて時間を節約したいと思いました。
- 毎回データ分析を自分で行ってレポートし、指導を受けたいと思いました。
- できたばかりの科目なので、小テストなど間違いがあったらしいが、連絡がきて、これは仕方ないと思った。オンラインで、動画以外の先生のお話のスピードを変えられる（早くできたり）と有り難いので、お願いしたいです。
- 小テストなどでの作成ミスが多いので、確認が必要です。
- 図はよいが、表の映像が相対的に小さいので、資料や講義ノートを通常のコピー用紙にプリントアウトすると字が小さすぎるうえ不鮮明になって識別が難しいものがかなりあった。表の数字が小さすぎることや不鮮明だと自分でおさらいをするとき不便。図や写真は問題ない。
- 資料のパワーポイント図がやや小さくて読み取りにくいので大きいと嬉しいです。小テストの設問や解答が2，3間違っていて困りました。
- 小テスト等の確認ミス

【大学院オンライン】「自然環境科学」

よかった点

(単位：人)

科目全般	
意見	合計
勉強になった	3
科目中、特に理解できて良かったと思う内容があった	1
具体的な事例、実践的な内容があった	1
視野が広がった	1
深く学ぶ(考える)ことができた	1
理解しやすかった	1

オンライン教材	
意見	合計
理解しやすかった(放送授業)	3
講師が良かった	1

【大学院オンライン】「自然環境科学」

改善点

(単位：人)

科目全般	
意見	合計
現実に生かせる内容にしてほしい	1

講義ノート・テキスト	
意見	合計
印刷したPDF資料(講義ノート等)が見づらい	3

設問回答	
意見	合計
小テスト・練習問題に誤りがある	2

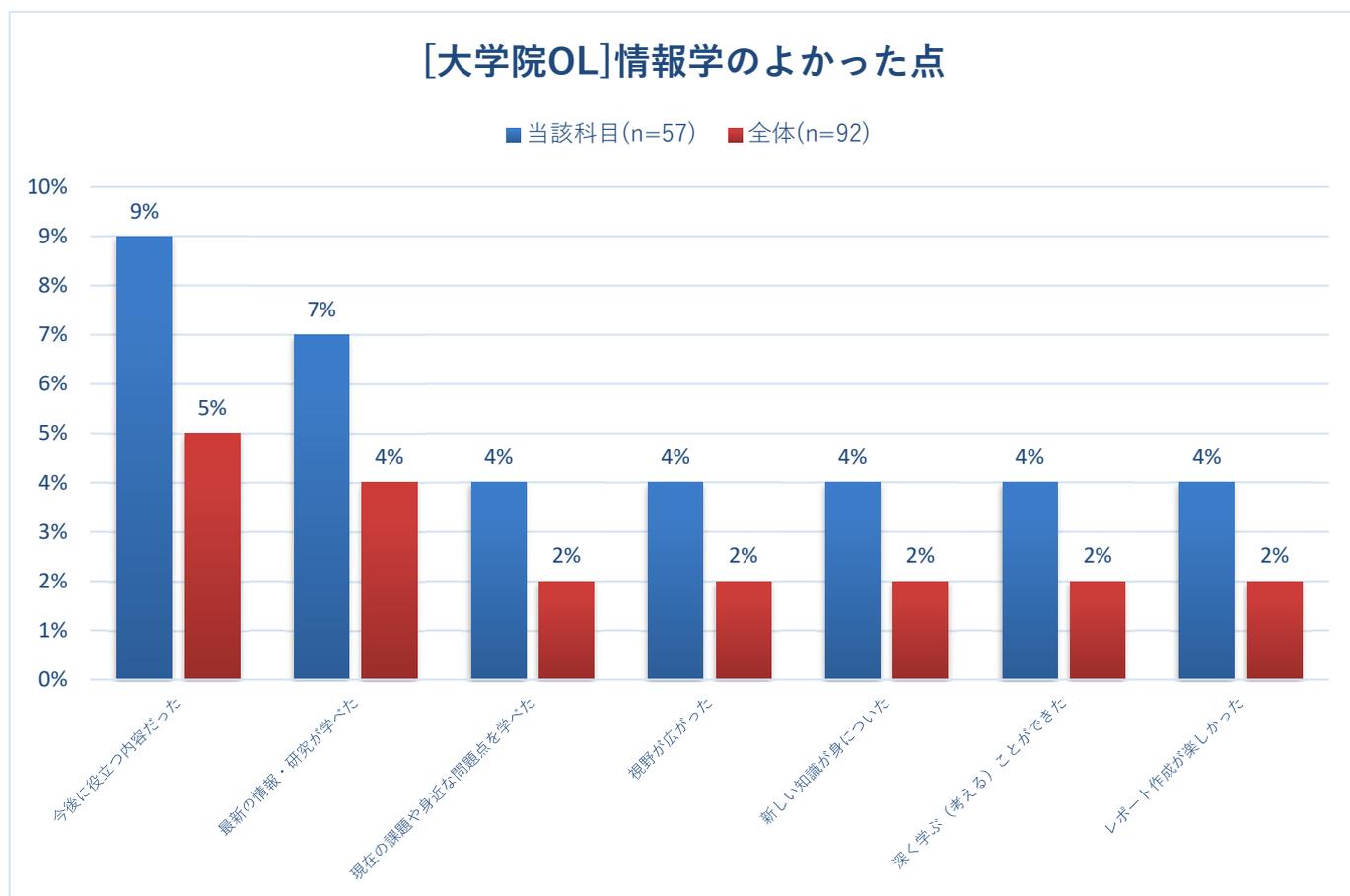
【大学院オンライン】情報学の傾向

よかった点

「今後に役立つ内容だった」が9%で最も高かった。次いで「最新の情報・研究が学べた」が7%で続いていた。

他では、「現在の課題や身近な問題点を学べた」「視野が広がった」「新しい知識が身についた」「深く学ぶ(考える)ことができた」「レポート作成が楽しかった」がそれぞれ4%で続いていた。

図4-9 【大学院オンライン】よかった点

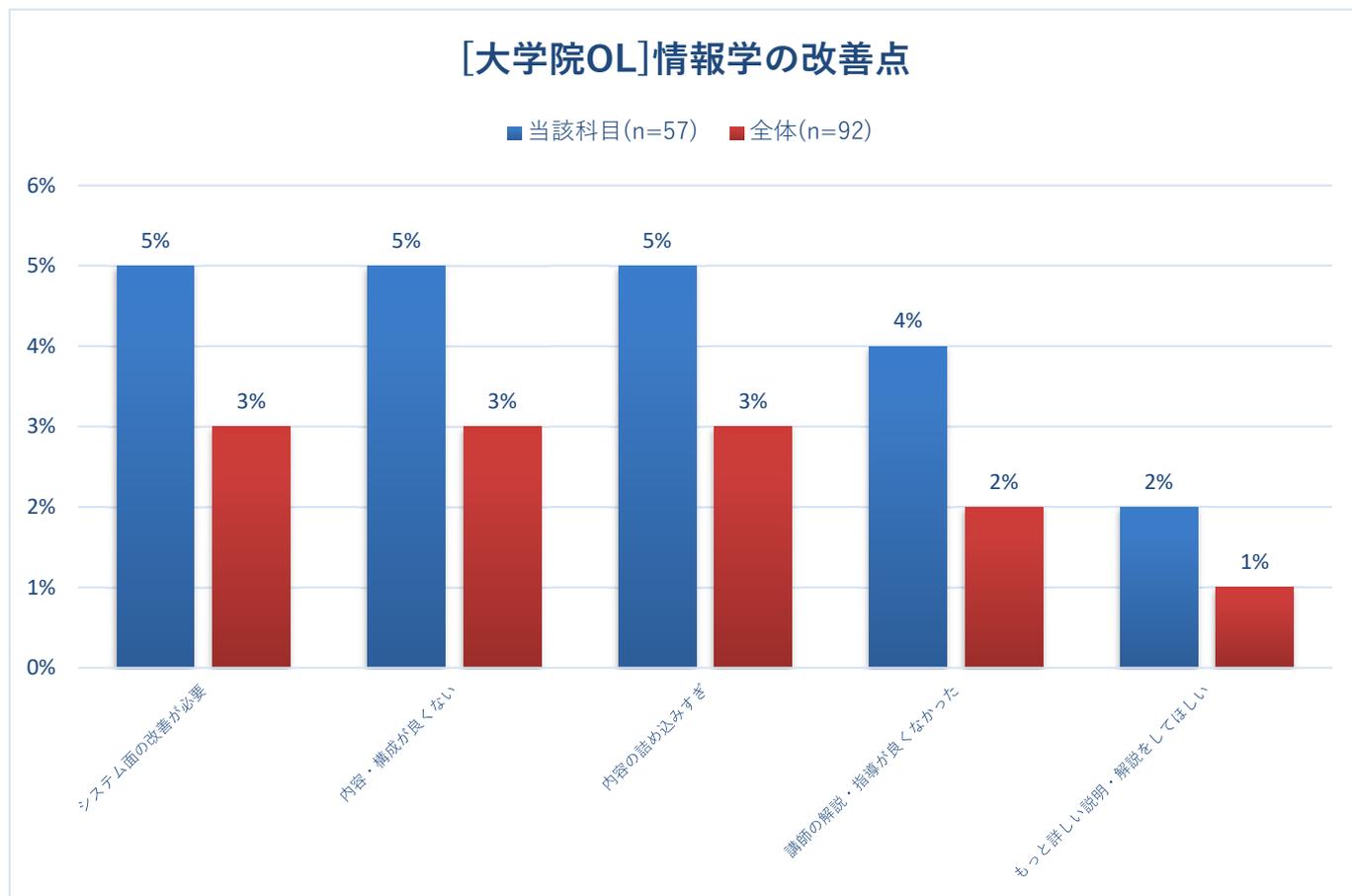


【大学院オンライン】「情報学」の傾向

改善点

「システム面の改善が必要」「内容・構成が良くない」「内容の詰め込みすぎ」がそれぞれ5%で、そのほかでは、「講師の解説・指導が良くなかった」が4%、「もっと詳しい説明・解説をしてほしい」が、2%で続いていた。

図4-10 【大学院オンライン】改善すべき点



【大学院オンライン】「情報学」の傾向

よかった点

- 日頃あまり考えないことで、重要なことが沢山あることが分かった。テーマによっては理解できないことも沢山あったが、日にちをあけて再度トライすると、すこしづつ理解できてくる実感があった。テーマについて自分の考えを構成する手がかりが得られたときは、特にそう感じた。
- 情報伝達の歴史や方法、現在の課題まで幅広く確認できたことはよかったと思う。
- 毎回レポートを課されることで、文章を書く練習になった。
- AI等の比較的新しい内容が含まれていて、研究サイドの考え方なども知れてよかった。
- 情報化社会における最近の動向を知り、論点がどのように整理されているのかを知ることができた。
- いろいろな視点から情報コミュニケーション学が学ぶことができました。
- 幅広い内容で、しかも各回とも深い内容で学習できたことが良かったです。生成AIなど最新情報も盛り込まれていて、とても刺激を受けました。
- 情報とコミュニケーションという観点から、政治や経済などをとらえ、視野が広がり、これからさらに学んでいくきっかけとなった。
- 総合的に知識整理ができました
- 最も良かった点は、文章を沢山書く機会があった事だ。最初は書く事自体に苦勞していたが、慣れてくると自分の考えをアウトプットする事への抵抗がなくなった。非常に良い経験だった。
- 私の知らない分野のことが時系列に紹介されるなど、理解しやすかった。
- オンライン授業は、BSラジオによる授業よりも分かりやすいので、情報学プログラムの授業は、できるだけオンライン授業にした方がよいと思う。
- 情報リテラシーとして満遍なく押さえておくべきことを、最新の事例やキーパーソンのお話も絡めて押さえらてた点について良かったです。
- あらためてコミュニケーションという観点で、ITというものを俯瞰することができ、これからの学習の方向性検討に役立った。
- 論文の文章を書く上で、大変参考・練習になりました。
- 講義映像の主任の先生方とのインタヴューアの先生方のお話が印象に残りました。
- 現代のデジタル社会の様々な課題を学ぶことができた

【大学院オンライン】「情報学」の傾向

改善点

- 同じグループの 학생さんとの心理的な距離感を掴めずに終わってしまった、という思いが強い。年齢差が大きいことが原因なのかもしれない。これは、改善すべきこととしてコメントしているではありません。
- 全体的にボリューム（オンラインの授業と小テスト）が多いかなと思った。
- 小テストが最初の結果で決まるより、最高結果の方が良い
- リーディング教材と動画の内容がほぼ同じ回があったこと。
- 課題が多すぎるように感じた。特に、レポート1が6月中旬で、範囲が1～6回、その後にレポート2をやろうとすると、1ヶ月の間に7～15回（9回分）とレポート2をやることになり、かなり苦しい。
- 特に、その回までのすべての課題を提出済みでなければレポート1、レポート2の課題内容すら知ることができないというのは、かなり負担が大きいと感じた。
- せめて、レポート1、2の課題内容くらいは、それまでの各回の課題を全部提出済みでなくても参照できてよと思う。通信課題が受講者の学習状況によらず期日がくれば郵送されてくることを思えば、課題内容すら見せないというこの科目は（言い方は悪いですが）講師の意地の悪さを感じてしまう。
- 講義内容は満足できるものだったが、進め方には工夫の余地があると感じた。技術的には、回答を用意しているのに、投稿の受け皿が準備されていないので戸惑った事があった。
- 小テストの設問では、クイズ番組のような質問が散見された。例えば、何年に誰がどんな事を言い出したか、に類する問いは、思考の積み重ねと無関係だと思った。講義内容の理解に関する質問に工夫が欲しかった。
- 相互評価が私には難しく感じました。しかも「評価も成績になる」というのは本当にやりづらかったです。
- 他の学生が書いたものを読むことで勉強になるというのはよくわかりました。しかし、評価するというのはどうしても「上から目線」のようになってしまうように感じ、中間の評価のようなものがなかったのも評価しづらい要因だと思います。
- 「話にならない」「問題がある」「少々問題がある」「良い」「大変良い」という評価でしたが、「少々問題がある」と「良い」のあいだに「普通」（5段階のうち3にあたるもの）のような良くも悪くもないととれる評価があると気持ちとしてつけやすくなると思いました。
- 「話にならない」というのは学生の立場としてはつけられません。あえてつけられないようなものを設定しているとしてもあまり気持ちの良いものではありませんでした。例えば「問題がある」「少々問題がある」「普通」「良い」「大変良い」という感じならばもう少し評価しやすくなるのではないかと思いました。「問題がある」という言葉がきつい印象を与えるのでこれでもまだ私には抵抗感があります。
- 小テストの内容が、講義映像の視聴有無のみを確認する内容である場合が多く、単元の学術的内容となっていないものが散見された。
- 私自身の反省点ですが、第1回目の課題提出を見過ごしていました。気が付いたのが締め切り後で、まにあいませんでした。残念でした。

【大学院オンライン】「情報学」

よかった点

(単位：人)

オンライン教材	
意見	合計
オンラインの特性が活かされていた	1
ゲストを招いた授業が良かった、ゲストの話が良かった	1
講師が良かった	1
講師の熱意・熱心さが伝わった	1
対談形式の授業が良かった	1

設問回答	
意見	合計
レポート作成が楽しかった	2

改善点

(単位：人)

オンライン教材	
意見	合計
システム面の改善が必要	3
講師の解説・指導が良くなかった	2

科目全般	
意見	合計
内容・構成が良くない	3
内容の詰め込みすぎ	3
もっと詳しい説明・解説をしてほしい	1
科目による難易度の差が大きい	1

講義ノート・テキスト	
意見	合計
講義ノート・テキストを印刷するのは大事	1
内容を充実させてほしい	1

設問回答	
意見	合計
レポートの難易度・分量・提出期限等が適切ではない	1
レポート提出が少ないとよい	1
レポート提出の方法がわかりにくい	1
小テスト（確認テスト）の難易度・分量・制限時間等が適切ではない	1
小テスト・練習問題の問題数を多くしてほしい	1